

# コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2022年7月19日

BMJ: 新型コロナワクチン接種後の心筋炎：  
発症率、リスク因子、自然経過、メカニズム

## 【松崎雑感】

ファイザービオンテックワクチンなどのmRNAワクチン接種後に12～29才の若い男性で1万人に1人程度心筋炎が起こるようです。発病原因などはわかっていませんが、ほとんど軽症で収まるようです。

モデルナよりファイザービオンテックワクチンの方が発病率が少なく、ワクチン接種間隔をなるべく延ばした方が発病率が少ないようです。

ワクチン接種後、胸が痛いなどの症状がある場合は内科（循環器内科）受診をお勧めします。

# 新型コロナウイルスワクチン接種後の心筋炎：

## 発症率、リスク因子、自然経過、メカニズム

Pillay J, Gaudet L, Wingert A, et al. Incidence, risk factors, natural history, and hypothesised mechanisms of myocarditis and pericarditis following covid-19 vaccination: living evidence syntheses and review. *BMJ*. 2022;378:e069445. Published 2022 Jul 13. doi:10.1136/bmj-2021-069445

### 方法

2022年1月までの諸データベースを検索し解析。1万人以上の調査報告などを対象として、mRNAワクチン接種後の心筋炎の発症に関する疫学データをまとめた。

### 結果

46件の調査論文（発症率14件、リスク因子7件、短期的経過11件、長期的予後3件、メカニズム21件）。発症率は若い男性に最多：12～17才男性50～139件/100万人、18～29才男性28～147件/100万人。

5～11歳男女と18～29歳女性ではファイザー・ビオンテックワクチン接種後の発症率は20件未満/100万人。

18～29才層では、ファイザー・ビオンテックワクチンよりもモデルナワクチン接種後に多く心筋炎が起きていた。

2回目接種後よりも1回目接種後の方が心筋炎リスクが高くなっていた。18～29歳の男性層では、1回目と2回目接種の間隔を56日以上空けた方が、心筋炎リスクが低下していた。

若い男性では2回目接種の2～4日後に心筋炎が発症するケースが多かった。84%以上の患者は観察のために2～4日入院していた。

3か月追跡できた患者では、心臓エコー検査上の異常が続き、半数では薬物投与と身体活動の制限が必要だった。

発症メカニズムについて16件の仮説が出されているが、決定的なものはない。

## 結論

思春期から若年成人男性ではmRNAワクチン接種後心筋炎発症のリスクが高い。

接種間隔を30日以上にして、モデルナよりファイザービオンテックワクチンを投与する方が発症リスクが少ないようだ。

5～11歳層での心筋炎リスクは極めて低いと考えられるが、確定的とは言えない。

発病のリスク因子はほとんどわかっていない。

全体として短期予後は良好だが、長期的追跡結果はまだ明らかにされていない。

メカニズムの解明のためには心筋生検、画像診断などを含めた前向き追跡調査を行う必要があるだろう。